

日時 令和4年7月12日(火) 第3校時  
 授業場 8年A組教室

生徒 8年A組 24名  
 授業者 市林 竜

1. 単元名 NEW HORIZON 2, Unit 2 “Food Travels around the World” (pp. 21-30)

2. 単元の目標

- (1) 日本や外国の料理を知り、食文化の歴史や変化について考える。(題材)
- (2) 接続詞を用いた文の特徴を理解し、それらの文を用いて時や条件、考えや理由など伝えたりすることができる(知識・技能)
- (3) 好きな食べ物やその理由について、会話したり書いたりすることができる。(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)
- (4) 教科書本文の内容を理解した上で、正しい発音・抑揚・強勢を身に付けようと努力をし、正しい発音・抑揚・強勢で教科書の英文を読むことができる。(知識・技能、主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア [知識]接続詞 when, if, that, because を用いた文の形・意味・用法を理解している。(L・R・SI・SP・W) イ [技能]接続詞 when, if, that, because を用いた文の理解をもとに、時や条件、考えや理由など理解したり伝えたりする技能を身につけている。(L・R・SI・SP・W)	ウ 料理や食文化について伝え合うために、好きな食べ物やレストランとおすすめの理由などについて書かれた文章の概要を捉えたり、自分の考えを表現したりしている。(L・R・SI・SP・W)	エ 料理や食文化について伝え合うために、好きな食べ物やレストランとおすすめの理由などについて書かれた文章の概要を捉えたり、自分の考えを表現したりしようとしている。(L・R・SI・SP・W)

4. 単元のデザイン (全 12 時間)

主張する手立て

時間	■ねらい 言語活動等	評価の観点			備考
		知	思	態	
1	■接続詞 when の意味や用法を理解し、正しく用いる技能の定着を図る ・ when を用いた文の導入と説明 ・ when を用いた文を使い、「暇なときにすること」などを伝え合う練習 (ペアワークや発表) ・ when の使い方を再確認し、書いてまとめる	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	・ 1～11 時間目までは記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して、活動の様子をしっかりと見取り、適宜助言を与える。 ・ 授業態度や発言内容、ノート
2	■接続詞 when が用いられた文章を正しく理解した上で音読することができる (Unit 2 Part 1) ■文章にアレンジを加えて発表することができる ・ 前時の復習 (when を用いたペアワーク)	(ア) (イ)			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の導入と内容確認</li> <li>音読練習→<u>リテリング</u></li> </ul>				等の記述を見届け、即時的な指導とその後の指導両方に生かす。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接続詞 if の意味や用法を理解し、正しく用いる技能の定着を図る</li> <li>前時の復習（音読）</li> <li><u>if を用いた文の導入と説明</u></li> <li><u>if を用いた文を使い「週末晴れ（雨）のとき、何をしようか」を言い合う練習（ペアワークや発表）</u></li> <li>if の使い方を再確認し、書いてまとめる</li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接続詞 if が用いられた文章を正しく理解した上で音読することができる（Unit 2 Part 2）</li> <li>■文章にアレンジを加えて発表することができる</li> <li>前時の復習（if を用いたペアワーク）</li> <li>本文の導入と内容確認</li> <li>音読練習→<u>プラスワンダイアログ</u></li> </ul>	(ア) (イ)			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接続詞 when と if が用いられた会話を聞いて正しく理解したり、正しく用いて会話したりすることができる（Mini Activity）</li> <li>前時の復習（音読）</li> <li>when と if を含むリスニングタスク</li> <li>when と if を含む会話のペアワーク</li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接続詞 that の意味や用法を理解し、正しく用いる技能の定着を図る</li> <li><u>I think that... を用いた文の導入と説明</u></li> <li><u>I think that... を用いた文を使い「自分にとって、最高だと思う日本食」を言い合う練習（ペアワークや発表）</u></li> <li>that の使い方を再確認し、書いてまとめる</li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■接続詞を用いて、自分の好きな食べ物やおすすめのレストランについて伝え合う。（Unit Activity）</li> <li>■<u>ペアワークの内容で、ALT とパフォーマンステスト（インタビューテスト）を行うことを理解し、個人目標を立てる</u></li> <li>前時の復習（that を用いたペアワーク）に because も用いて、理由も付け加えて会話する。</li> <li>好きな食べ物やおすすめのレストランについて考える→ペアワーク</li> <li>パフォーマンステストの内容を理解し、<u>目標とそれに向けてすることを考えて書く。</u></li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	

8	<p>■接続詞 that が用いられた文章を、グループ等で協力しながら段階的に正しく理解することができる (Unit 2 Read and Think 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>前時 (that と because) の復習＝パフォーマンステストに向けた練習 (ペアワーク)</u></li> <li>・ 本文の導入と内容確認 (教科書に沿って、<u>グループワーク等交えながら段階的に理解する</u>)</li> <li>・ 音読練習</li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	
9	<p>■接続詞 that が用いられた文章を正しく理解した上で音読することができる (Unit 2 Read and Think 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の復習 (本文の内容を口頭で再確認)</li> <li>・ 音読練習→<u>プラスワンダイアログ</u></li> <li>・ because の使い方を再確認し、書いてまとめる</li> </ul>	(ア) (イ)			
10 本 時	<p>■接続詞 because が用いられた文章を、グループ等で協力しながら段階的に正しく理解することができる (Unit 2 Read and Think 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>because の復習＝パフォーマンステストに向けた練習 (ペアワーク)</u></li> <li>・ 本文の導入と内容確認 (教科書に沿って、<u>グループワーク等交えながら段階的に理解する</u>)</li> <li>・ 音読練習</li> </ul>	(ア) (イ)	(ウ)	(エ)	
11	<p>■接続詞 that が用いられた文章を正しく理解した上で音読することができる (Unit 2 Read and Think 2)</p> <p>■Unit 全体を振り返り、食文化について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の復習 (本文の内容を口頭で再確認)</li> <li>・ 音読練習</li> <li>・ Unit 全体の振り返り (Food travels around the world. How does it change?)</li> </ul>	(ア) (イ)			
12	<p>■自分の好きな食べ物やおすすめのレストランについて会話する。(インタビューテスト)</p> <p>■教科書本文を正しく音読することができる。(音読テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALT の先生と、約1分間自分の好きな食べ物やおすすめのレストランについて紹介した上で、相手からの質問にも即興で答えることができる。</li> <li>・ インタビューの後に、音読テストを行う。Unit 2 のどこかのパートの本文を正しい発音・抑揚・強勢で読む。</li> </ul>	ア イ	ウ	エ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューテストの評価はALT、音読テストの評価はJTが行う</li> <li>・ インタビューテストも音読テストも生徒に録画・録音させて、振り返りに使用するとともに、教師にも口</li> </ul>


					イロノート上で送信し、記録に残す
後日	○ペーパーテスト	ア イ	ウ		定期テストを想定

### 5. 本時の目標 (10/12)

- (1) 接続詞の because を用いて、自分のしたことについて話したり書いたりすることができる。(S, W)
- (2) 接続詞 because が使われた文章を聴いたり読んだりして、概要から詳細まで段階的に理解することができる。(L, R)

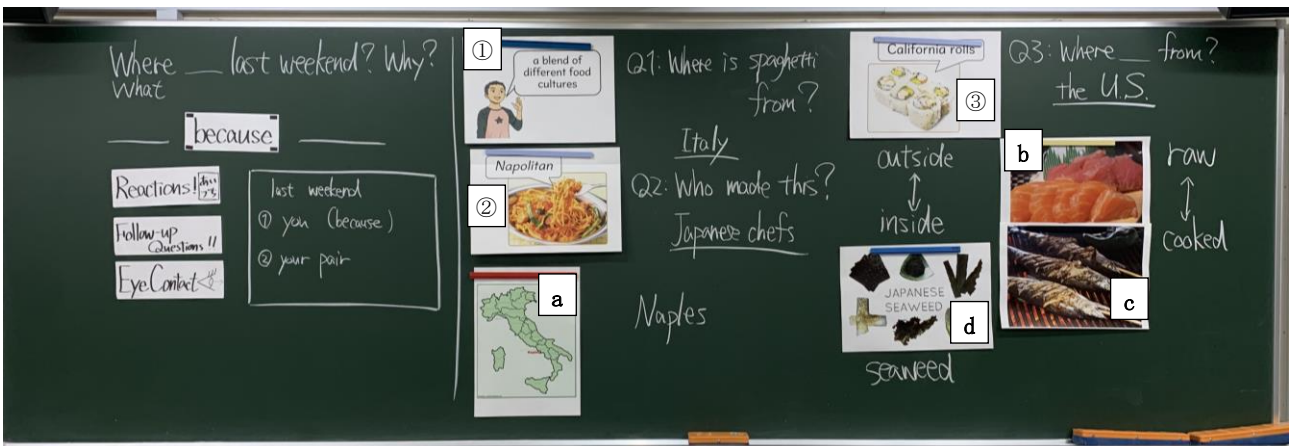
### 6. 本時のデザイン

主張する手立て

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) ○子供の学習活動	◆留意点 ※評価
<p>1. 復習 (because)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     課題1 <u>Where did you go last weekend? And why?</u> </div> <p>■I went to the festival near Kushiro Art Museum with my son and we had lots of food there because I like festival food and we were hungry. It was lunch time. ○ペアワーク</p> <p>Where did you/your partner go last weekend? (本人とペアの文を口頭で2名ずつ確認)</p> <p>■<u>ロイロノートで文をタイピングし提出させ、5名ほどその場で添削</u></p> <p>2. 教科書本文導入：<u>オーラルイントロダクション</u> (p. 28)</p> <p>■ (教科書の絵を用いながら。下線の語は板書) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵①</span> Today again Josh is making a speech. You know, <u>curry</u> travelled from India to the UK, and to Japan. He is taking about other dishes now. First ... <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵②</span> what's this? (spaghetti) and this? <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵③</span> (California rolls) Now I give you some questions. Q1: <u>Where does spaghetti come from?</u> (Italy) Q2: And who made this dish, <u>Napolitan?</u> (Japanese chefs) How about California rolls? Q3 Where are they from? (the U.S.) ○音声を聞いて、<u>答えを班で共有</u></p> <p>●■口頭で指名しながら答えの確認</p>	<p>◆留意点 ※評価</p> <p>◆<u>Follow-up Questions, Reactions, Eye Contact</u>のカードを提示</p> <p>※becauseを用いて理由を説明できているか</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>◆<u>考えた理由や根拠を明確にして交流</u></p>

<p>→▲Why is this Napolitan? What is Napolitan? (Because...)                  Because Japanese chefs named it after <u>Naples</u> in Italy.                  What's Naples in Japanese? (ナポリ) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵 a</span></p> <p>▲Was sushi popular in the U.S. at first? (No) Why not?                  (Because they didn't eat raw fish.) This is <u>raw</u> fish. <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵 b</span>                  What's the opposite of 'raw'? (<u>cooked</u>) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵 c</span> And why is rice                  on the outside? (Because they didn't like seaweed.) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">絵 d</span>                  What's the opposite of 'outside'? (inside)</p> <p>3. 本文内容理解</p> <p>●教科書を開かせて場面設定を確認。Op. 27 Round 1確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 課題 ナポリタンとカリフォルニアロールについて理解を深めよう             </div> <p>●問題文が英語の際の留意点を確認する「問題文で使われている英単語を探す」</p> <p>Op. 29 Round 2 個人→<u>グループシェア</u>→<u>全体確認</u>・解説                  ▲③「冒頭の部分に注目」</p> <p>●英問英答の際の留意点を確認する「質問タイプを見極める」                  「問題文で使われている英単語を探す」</p> <p>Op. 29 Round 3① 個人→<u>グループシェア</u>→<u>全体確認</u>・解説</p>	<p>※絵をヒントに英語を英語で理解できているか</p> <p>◆考えた理由や根拠を明確にして交流</p> <p>◆考えた理由や根拠を明確にして交流</p>
---	--

板書計画(ピクチャーカードの数字や記号は、上記本時のデザインを参照)



### 7. 英語科における主張

(1) 英語科における「深い学び」の具現に向けて影響力を発揮し合う「学び合い」  
 外国語活動・英語科においては、「コミュニケーション力」の育成に焦点をあて、研究を進めていく。外国語活動・英語科における「コミュニケーション力」育成のプロセスは、以下の通りである。

まず、設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。次に目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。そして目的達成のため、実際にコミュニケーションを行う。最後に言語面・内容面で学習のまとめと振り返りを行う。この学習過程の中で、学んだことの意味づけを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

コミュニケーションの見通しを立てたり、実際にコミュニケーションを行ったりする際は、積極的に他者と関わることが不可欠である。その際、目的や場面、状況等に応じて自分の考えや情報を自ら発信したり、相手の理解を確認するなどの配慮を行ったり、不明な点を質問するといったリーダーシップを発揮することが重要となる。また、一方的なやり取りにならないよう、質問に対して返事やあいづちを返したり、他者から表現等を学んで主体的にまねたり取り入れたりするといったコミュニケーションの相手を支えるフォロワーシップを発揮することが欠かせない。そこで、本校では、単元や複数の単元を合わせたまとまりにおいて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした具体的な課題等を設定するなどして、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させることを通して、「コミュニケーション力」の育成に努めていく。

### 主張する手立て

- ① コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にした言語活動の設定
- ② より適切な表現や考え、根拠に気付かせる工夫

①外国語活動・外国語科・英語科においては、言語や文化等についての「知識・技能」を身に付け、既習の知識・情報等と関連付けて深く理解し、それらをコミュニケーションの「目的、場面、状況」等に応じて相手への配慮を行いながら活用し、「思考、判断、表現」できるようになることを目指している。そのため、「なんのために」「どういう場面、状況で」「どのような条件等が」あり、「どういう相手に対して」表現するのかを明らかにした言語活動を設定する必要がある。その際、子供の発達段階や興味・関心に合わせ、実際の英語の使用場面に即した題材を扱うように工夫する。

②自分の伝えたいことをどのように表現したら伝えられるか、実際のコミュニケーションの中で疑問に感じたり、経験したりする中で、言語材料と出会うことで必要感を持って学習することができる。そのために、「こういう時にはこういう言い方をするのか」といった気づきを与えるに足るインタラクションや資料提示を行う。また、内容面や言語面の指導を教師から一方的に行うのではなく、子供の気づきを引き出しながら、子供が自分の考えと他者の考えを比べたり、より適切な表現を考えたりできるようにすることで、言語形式と意味を結び付けて考え、自ら表現を構築できるようにする。

そして、上記①②の手立ての中で、より活発に生徒間で影響力を発揮させるためには、教師からの一方的な説明や提示だけではなく、生徒に適切な目標や表現、活動の反省等についてよく考えさせたり、生徒間でペアワークやグループワークを行ったりすることが欠かせない。そして、ただ単にそういった活動を設けるのではなく、生徒たちがお互いから学び合える、言わば、互いに影響力を発揮しやすいような仕掛けが求められる。具体的な

仕掛けについては、それぞれの授業や学習内容によって変わってくる。本時に関しては以下の通りである。

(2) 授業の主張点

- ① 1での例示及び場面設定（場面から適切な表現の選択、既習事項との融合）  
2での英語を英語で理解させ、英語のコミュニケーション力を養う工夫（場面や状況を英語で理解する力の向上）
- ② 1での3枚のカードの提示（互いに影響力を発揮し、より円滑なコミュニケーション）  
1での添削場面（他者の表現からの気づきと正しい英語使用へのより深い理解）  
2での答え共有（根拠をもち、学び合いを通じた気づきとより深い理解）  
3での答え共有（根拠をもち、学び合いを通じた気づきとより深い理解）

引用・参考文献

- ・文部科学省 「学習指導要領（平成二十九年告示）解説 外国語編」、日本文教出版、2018
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、東洋館出版社
- ・文部科学省 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」
- ・和泉 伸一編著「フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業 - 生徒の主体性を伸ばす授業提案」、アルク、2016